

## 地球研、谷口 P 物質班-都市経済班連携会議 No.2

目的：重金属汚染に関する意見交換を行い、連携成果の方向を探る。

日時：2009年1月31日 13:00-15:00

場所：法政大学ポアソナードタワー 2 4階人間環境学部会議室

出席者：小野寺真一、金子慎二、藤倉 良、細野高啓、齋藤光代

### 内容

- 13:00-13:20 はじめに-プロジェクトの方向と班の方向、本の紹介-  
小野寺真一、金子慎二(広島大)
- 13:20-14:20 都市沿岸堆積物からみた重金属の汚染負荷の変動 細野高啓(秋田大)  
コメント 藤倉 良(法政大)・金子慎二(広島大)
- 14:20-14:40 バンコクにおける土壌中の重金属蓄積量分布 齋藤光代(愛媛大)  
コメント 藤倉 良(法政大)・金子慎二(広島大)
- 14:40-15:40 総合討論-次回に向けて-

### コメント&メモ

@冒頭、金子さんの購入した重金属の本の紹介があり、様々なマテリアルフローの解析結果が紹介された。筆者に問い合わせる予定(金子)。

@従来のほとんどの論文で、堆積物中の鉛は自動車のガソリン由来であるという説明がなされているが、いくつかの重金属成分のピークがともに1970年と同時期というのは、工業排水の垂れ流しなどがストップしたことによる影響を示唆するのではないかというコメントが出た(藤倉より)。この点は、従来の論文と異なる視点であり、裏付けが取れば新たな論文としての可能性がでてきた。この件は、金子班で突っ込んでいくこととなった。

@石炭の影響(=暖房の影響)は温帯地域の大阪だけであり、ジャカルタ、マニラではないので、その点でも異なるだろうという貴重な見解が出た(藤倉より)。

@細野ダイアグラムをもとに、金子班も、社会政策的な議論を加えて論文を書くことを確認した。もちろん、その前に物質班(細野、梅沢ら)が論文印刷にこぎ着ける。

@齋藤の蓄積量にも年代が入ると面白いだろうとのコメントが出た(細野)。そのためには、少なくとも現在のインプット量データが必要だろう(雨の採水や粉じんの測定など)(藤倉、小野寺)。

@Shindo ら(2006) EcoModel :すでに各国で窒素負荷をモデル計算している(梅沢の引用)。海洋の窒素は蓄積量としてモデル計算をする必要がある(小野寺)。また、GISベースの原単位法で各年代の窒素負荷を計算し、地下の蓄積量も復元して計算する予定(小野寺&清水+藤倉モデル)。

@次回、連携会議は、3/30(月)を予定(検討中)。主に窒素負荷について。出席予定者は、金子、藤倉、田中、今井、(松本)、小野寺、梅沢、(細野)、齋藤、清水、(大川)、(安元)、(谷口)。場所は、東京(法政大学)または秋田を予定。